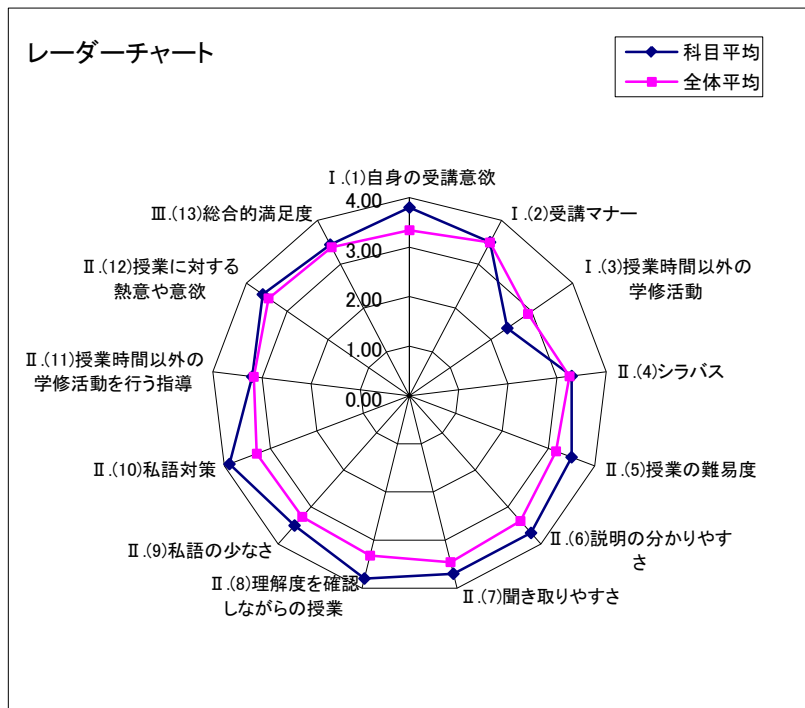
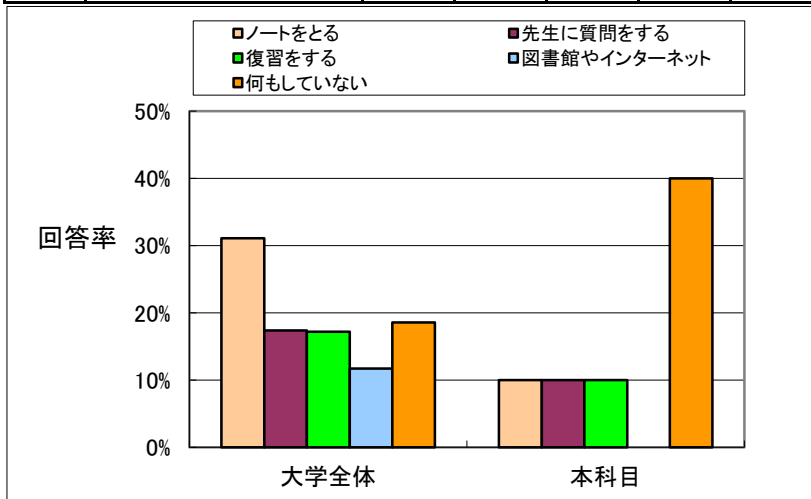


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14) 授業を理解するための工夫	10.0	10.0	10.0	0.0	40.0



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.80	3.34
	I.(2)	3.50	3.49
	I.(3)	2.40	2.91
講義内容・方法	II.(4)	3.30	3.26
	II.(5)	3.50	3.16
	II.(6)	3.70	3.38
	II.(7)	3.70	3.46
	II.(8)	3.80	3.32
	II.(9)	3.50	3.27
	II.(10)	3.89	3.30
	II.(11)	3.20	3.17
	II.(12)	3.60	3.46
	総合評価	III.(13)	3.44

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 I.(1)~(3)	3.23	3.25
講義内容・方法 II.(4)~(12)	3.58	3.31
総合評価 III.(13)	3.44	3.39

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2012年度 後期
時間割番号	3404
科目名	日本語コミュニケーションⅡ
教員名	

①授業計画の達成度について

本授業は文章の書き方を学ぶことを主目的とし、共通の教科書である「大学生のための日本語表現実践ノート」の第4課 論作文、第5課 分析・考察 をシラバス通りに進行した。教科書の内容を解説してから、複数の練習問題(ドリル)に取り組みせ、実際に文章を書く機会を多く与えることで、学生たちが苦手と感じる文章作成に対する学びと慣れを図った。手紙の書き方では前文、主文、末文、後付などの構成の仕方、文章の要約や論作文およびデータの分析と考察では、メインとなる主張やデータをまず見抜きそこから組み立てる手法などについて、基本的な理解は成されたと考えている。

②授業の進め方について

ほぼ毎回、前期の復習として漢字、熟語、慣用表現などに関する小テストを行った。大学生としてぜひ身につけてほしいレベルの設問ではあったが、まだ十分とはいえない。PCやモバイルでの漢字変換が標準となった今では、とくに漢字の書き取りの能力がおぼつかない。授業ではその日のテーマについて教科書を解説し、設定された練習問題(ドリル)を実践させて、毎授業ごとにそのうちひとつの課題を提出させた。個別のアドバイスや添削といった指導を行ったが、文章作成能力は個人差が大きく、すべての学生に対して十分とはいえないと感じている。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

授業としてはうまく展開できたと感じている。教科書の設問をスポーツに関するものに変更するなどして、出来るだけ学生たちが興味をもてるよう工夫したことも成功したように思う。授業外の学習や理解するための工夫などについて数字が低いのは、もう少し宿題的な課題を与えた方がよかったのかもしれない。